



写真:病棟から見たある朝の風景

新年のご挨拶

地域医療連携室 室長
(消化器内科 部長)

荒滝 桂子

あけましておめでとうございます

平成、令和と駆け抜けた2019年。年々時の流れを早く感じますが、2019年は特に早く感じました。「大人になるとあっという間に1年が過ぎるのはなぜ？」チョコちゃん(*)によると、「人生にトキメキがなくなったから」。トキメキやワクワクを感じる機会が多いと、過ぎた時間を長かったと感じるそうです。いくつになっても、感性豊かでありたいものです。

そういえば、私、減量外来で「0.1kgの増減に一喜一憂して」と伝えています。わずかな増減に敏感な方は減量に成功します。一方、わずかな増減に鈍感、-0.1kgに喜びを感じられない方は減量できないんですよね。減量においても、トキメキ、ワクワクは大事です。

肝臓内科の外来はここ数年で「脂肪肝」が急増中。痛くもかゆくもない「脂肪肝」の方の生活習慣をいかに変えるか。私は、**メタボリックドミノの図**(伊藤裕 日本臨床 2003)を使用して「次に起こるのは心血管イベント」と説明(脅し?)しています。このメタボリックドミノ、「肥満」→「脂肪肝」→「生命にかかわる心血管イベント」の順番で倒れていきます。

すなわち、私には、「肝臓専門医の責任は重大である」と訴えている図に見えるのですが・・・C型肝炎は「平成」でほぼ終結、肝臓専門医の悪あがきに聞こえますか? 「令和」もまだ為すべきことが山ほどあると思っております。

最近の私の外来一座らない、患者さんと一緒にスクワット。「はい、スクワット1回達成しましたね」と、小さなワクワク・トキメキを共に味わう—そのような外来になっています。

おっとー、「ようこそ、ときめく広島へ。」の文字が飛び込んできた! 実は、JR下り線の電車の中でこの原稿を練っていました。

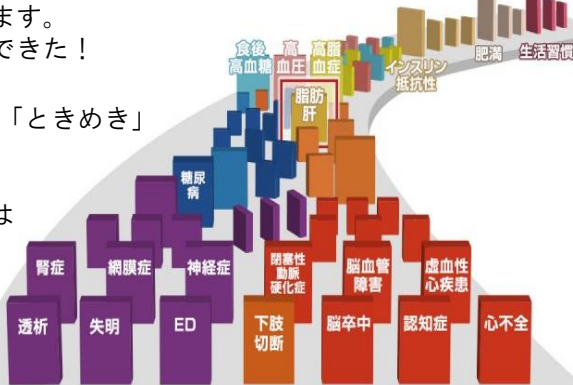
そして迎えた2020年・・・やはり今年のキャッチフレーズは「ときめき」で決まり! さらにときめく減量外来にしたいと思います。

「ようこそ、ときめく土谷総合病院へ。」これはかなり違和感。病院ですからね。しかし、皆様に喜んでいただきたいという思いは同じです。

地域医療連携室一同「土谷総合病院を受診してよかった」「土谷総合病院に紹介してよかった」と思ってもらえるよう、さらに努力いたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

*チョコちゃん:NHK総合テレビ「チョコちゃんに叱られる!」のキャラクター。好奇心旺盛でも知っている5歳の女の子。



遺伝・体質

図: 伊藤裕, メタボリックドミノ 日本内科学会雑誌 2011

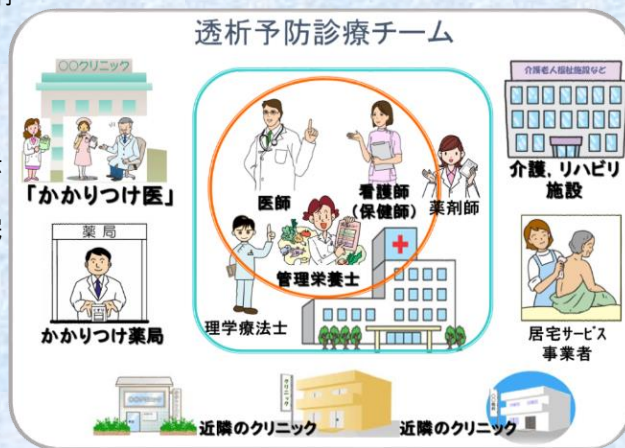
如何なる腎不全・臓器不全にも対応するとの基本方針のもと、その時々新しい技術を導入しています。腎疾患治療と慢性腎不全症例の透析導入とその合併症の治療、急性腎不全治療が中心となり、外科医、腎臓内科医が連携して診療に当たっています。

- 1. 早期腎疾患治療**：検尿異常精査、さらに腎生検を行い、その結果に基づいた薬物療法を行います。
- 2. 保存期腎不全（CKD）治療**：薬物療法、食事療法、生活指導を基本とし、末期腎不全への進行を抑えます。また腎臓病教室を開催し、患者教育に力を入れています。特に透析予防診療チームの考え方の下、医療連携を積極的に活用しています（図参照）。
- 3. 末期腎不全治療**：血液透析と腹膜透析の両者を行っています。患者様の病態、生活に合った療法選択を行います。更に、必要な患者様には在宅血液透析も積極的に選択されます。また末期腎不全期より、腎移植治療の説明を行い、関連施設に紹介させていただきます。
- 4. 急性腎不全（AKI）治療**：持続的血液浄化療法を主にICU治療を基本とします。そのため24時間治療可能な体制となっています。
- 5. 透析血管外科**：バスキュラーアクセス増設、経皮的血管形成術を行います。
- 6. 下肢末梢動脈疾患**：2018年の診療報酬改定にて下肢末梢動脈疾患指導管理加算が収載されましたが、放射線科・血管外科・皮膚科と連携し、積極的に透析患者下肢病変への治療を行っています。
- 7. 連携医療**：土谷総合病院では上記のCKD・AKI治療を主にしていますが、透析患者様が安定後の維持透析療法は、中島土谷クリニックまたは大町土谷クリニックにて加療します。また長期療養が必要な方は、阿品土谷病院に入院していただき加療させていただきます。

今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。

【外来担当表】

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|----|----|----|----|----|
| 午後 | 川西 | 森石 | 川西 | 森石 | 新宅 |



心臓血管外科

山田 和紀

新年明けましておめでとうございます。昨年は多大なご支援をいただきまして、誠に有難うございました。当科は、出生直後の新生児から90歳以上の超高齢者までの心臓及び血管の手術を専門にしており、年間300例以上の手術を行っております。このうち200～250例が心臓・胸部大血管手術、約100例が腹部大動脈及び四肢など末梢血管手術です。

平日の通常診療時間は勿論、夜間や休日にも院内に必ず心臓血管外科医が待機しており、急患にも常に迅速に対応できる体制を整えております。

また手術の予定を組む際には、民間病院の特色を生かして柔軟に対応し、初診から実際の手術までの期間をできるだけ短くするように努めております。

最近の取り組みとしては、弁膜症に対する低侵襲手術が挙げられます。従来の胸骨正中切開ではなく、右側胸部の小皮膚切開からのアプローチによる手術で、美容上の利点があることに加え、胸骨を切らないことにより、早期の社会復帰が可能になります（写真参照）。今のところ、限られた患者様にのみ行っていますが、徐々に適応を拡げて手術数を増やしているところです。

循環器内科や小児循環器科、放射線科との緊密な連携のもとに、より安全でより確実であることは勿論のこと、それぞれの患者様にとって最良の治療が行われるよう、日々研鑽に努めております。

今年も昨年に引き続き、ご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

| 氏名 | 役職 | 専門分野 | 外来担当時間 |
|------|------|--------------------------|---|
| 望月高明 | 顧問 | 心臓血管外科領域全般 | 月・金 8:30～11:30 水 12:30～16:30 |
| 山田和紀 | 主任部長 | 心臓血管外科領域全般(特に小児) | 月・金 12:30～16:30 |
| 古川智邦 | 部長 | 心臓血管外科領域全般(特に成人心臓・胸部大動脈) | 水 8:30～11:30 木 8:30～11:30 12:30～16:30 |
| 望月慎吾 | 医長 | 心臓血管外科領域全般(特に腹部大動脈・末梢血管) | 月・火 8:30～11:30 |



低侵襲僧帽弁手術の皮膚切開

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は、当院への格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
循環器内科にも多くの患者様をご紹介いただき誠にありがとうございます。

循環器領域の治療手技、デバイスの進歩には目を見張るものがあります。例えば不整脈に対するアブレーション治療では、カテーテル先端の接触圧や焼灼範囲をリアルタイムで数値として認識できるようになっていきますし、バルーンアブレーションにより心房細動に対する肺静脈隔離の安全性、有効性が高まっています。また、虚血性心疾患の領域では、高度石灰化冠動脈病変に対するカテーテルに、より小径のものが開発され手首の血管等からのアプローチが可能になるとともに治療時の一時的血流停滞が低率になりました。大動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁置換術（TAVI）も、当院では手技の熟練に伴い治療時間は短縮され、合併症頻度も飛躍的に減少しています。

今後も、心房細動で血栓が形成される左心耳を専用カテーテルデバイスで閉塞する手技が近々使用可能となりますし、僧帽弁に対するカテーテル治療など、新しい治療法が一般臨床で使用されるようになります。

当院はそのような先進治療を積極的に導入する一方、その治療法が本質的に患者さんに有益なものかどうかを見抜く眼力が求められると思っています。常に患者さん本位の立場を貫き、最善の治療を求めていくことを第一義的に考えていきたいと思えます。

心不全パンデミックと言われるように、あらゆる心臓病の終末病態としての心不全は今後増加の一途を辿ると思われまます。昨年より心不全チームを結成し、心不全末期における緩和ケアや、在宅患者の一貫した管理を目指して多職種でミーティングを行い最適な治療をすべく検討を行う体制を整えました。

これまで以上に地域の先生方と密に連携し、患者様に最高の医療を提供できるよう努力したいと思います。

本年も、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



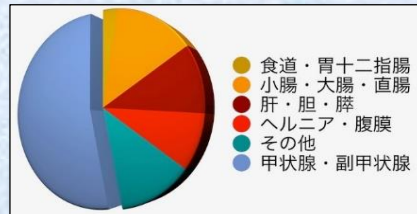
◆◆緊急症例は、循環器内科ホットラインへご連絡ください：080-1908-6660（直通）※24時間いつでも対応可能◆◆

外科

西原 雅浩

新年明けましておめでとうございます。

平素より多くの症例をご紹介いただき大変ありがとうございます。
土谷総合病院外科の手術は年間約400例で、そのうち甲状腺腫瘍の手術症例は約200例を占めています。その中には自覚症状がほとんどないにもかかわらず、かなり進行した状態でみつかったものも多く、そういった場合には、気管や食道、喉頭、反回神経、頸動静脈等の重要臓器の温存や再建を心がけ、根治性を追求するだけでなく患者のQOLを重視し手術を行っています。その甲状腺外科を率いる杉野副院長は、先頃発刊された「迷ったときの医者選び 広島がん診療編」（下の画像）に紹介されました。



【2018年手術の内訳】

その他、上部および下部の消化器がんや胆石・ヘルニア等の症例も広く手がけています。

世界に例を見ないスピードで進む高齢化により、高齢者の手術症例が増える傾向にあります。その為、心血管系の疾患や慢性腎臓病などの疾患をかかえた症例も多くなっており、安心・満足して手術を受けていただけるよう該当科と連携をとりながら術前術後管理を行っています。しかし特に高齢者の場合、術後早期の退院が難しいケースがあります。そのような場合は地域包括ケア病棟でしっかり退院準備を行って自宅退院できるよう努めています。

甲状腺がん・消化器がん等の化学療法も必要に応じ行っており、症例数は年々増加しています。慎重さが求められる高齢者や慢性腎臓病患者の化学療法にも前向きに取り組んでいます。さらに最近の取り組みとして、急性期の胆嚢炎や虫垂炎・イレウスなどの鏡視下手術などの急患手術にも対応しております。

患者さんファーストでこれまで以上に地域医療に貢献して参ります。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

【外来担当表】

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|----|----|----|----|----|
| 午前 | 川崎 | 杉野 | 西原 | 杉野 | 三隅 |
| | | 西原 | | 西原 | |
| | | 三隅 | | 川崎 | |



<外科スタッフ一同>

あけましておめでとうございます。いつも患者様をご紹介頂き、また、こちらからも紹介をさせて頂き、大変お世話になっております。本当にありがとうございます。

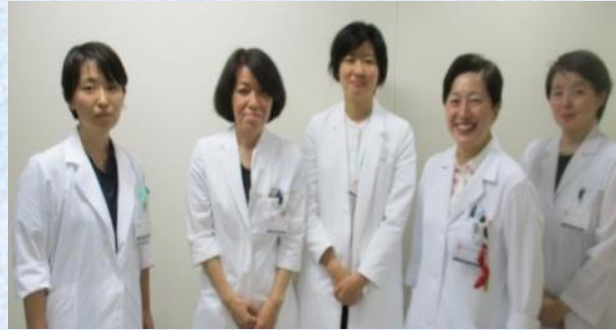
2019年は2018年に比べると少し余裕のある1年でした。その理由として考えられることが昨年11月から12月にかけて複数の新聞に載っていました。日本経済新聞には「厚生労働省が11月26日に発表した人口動態統計（速報）によると2019年1月から9月に生まれた子供の数は67万3800人で前年同期に比べると5.6%減った。年間の出生数が5%を上回る減少となったのは直近では1989年。2019年は30年ぶりの大幅減となる可能性がある。」と書かれていました。単純に1-9月までと10-12月が同じ割合で出生したと仮定すると、年間の出生数は89万8400人です。出生数がそれだけ減少すると、病院での分娩数は減少するのも無理のないことと思われました。分娩に携わっている私たちにとっては甚だ残念なことです。また、想像以上に少子化が進行していることにもかなり不安を覚えてしまいます。

しかし落ち込んではいられません。気持ちを切り替えて今年も分娩や手術などに頑張っていく所存です。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

【外来担当表】

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|------|------|------|------|---------|
| 午前 | 土谷 | 鍵元 | 道方 | 土谷 | 金子 |
| | 金子 | 吉本 | 鍵元 | 金子 | 道方 |
| 午後 | (予約) | (予約) | (予約) | (予約) | (検査・予約) |



<産婦人科スタッフ一同>

小児科

新年あけましておめでとうございます。

小児科は「日本小児循環器学会専門医制度修練施設」、「日本周産期・新生児医学会専門医制度指定研修施設」、「胎児心臓超音波検査専門施設」、「Amplatzer Duct Occluder (ADO) を用いた経皮的動脈管閉鎖術の施行認定施設」に認定され、NICU（新生児集中治療室）は地域周産期母子医療センターに指定されています。先天性心疾患、川崎病、不整脈などの小児の心臓病の診療や、NICUにおける新生児治療を中心とする高度医療の分野から、一般小児科診療及び予防接種、乳児健診、育児相談まで幅広い診療を行っています。

心臓病の診療では、先天性心疾患に対する手術は年間60～90件、心カテーテル検査は年間90～130件施行しており、バルーンカテーテルによる血管拡張術やコイル塞栓術などの経皮的カテーテル治療も年間20～30件行っています。2015年からはADOを用いた経皮的動脈管閉鎖術が可能となり、今までなら外科的に閉鎖せざるをえなかったような太い動脈管もカテーテルで閉鎖することができるようになりました。

日々の診療も、心エコーやCT、MRIを用い、より非侵襲的なフォローを心掛けています。また、胎児期からの心疾患のスクリーニング・診断を目的に胎児心エコーも年間70～100件施行しています。

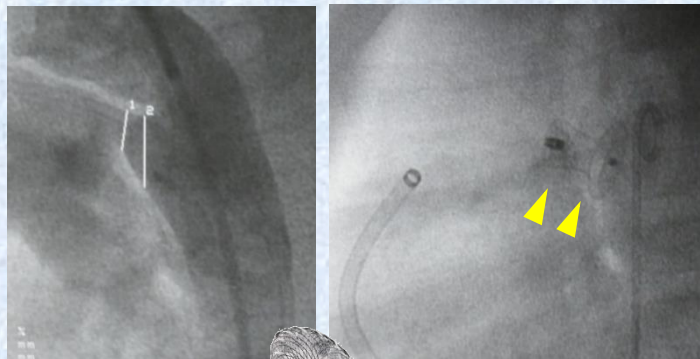
胎児診断に基づく医療は、単に胎児診断を行うだけではなく、より最善の医療を受けて頂くことを提案する医療であり、胎児診断に基づいた説明やその後のフォローにも力を入れるように努めています。

新生児の診療では、地域周産期母子医療センターとして年間180～220人の新生児の入院を受け入れております。当科の特色として、NICU入院児の20～30%が先天性心疾患を持つ新生児となっています。

胎児から新生児・小児、そして小児循環器領域に関して気になることがございましたらご紹介頂ければ幸いです。今年も宜しくお願い申し上げます。

【外来担当表】

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|------|--------|------|------|------|
| 午前 | 杉野 | 田原 | 浦山 | 杉野 | 田原 |
| | 森田 | (検査) | (検査) | 浦山 | (検査) |
| 午後 | (健診) | 胎児心エコー | | (健診) | |



【動脈管】

【Amplatzer Duct Occluder留置後】



Amplatzer Duct Occluder(ADO)

認知症看護認定看護師 Dementia Nursing



三階北病棟
看護主任
長光 恵子

必要とされる知識と技術（一部）

- ◆ 認知症の各期に応じた療養環境の調整およびケア体制の構築
- ◆ 行動心理症状の緩和・予防

《日本看護協会HPより》



入職して15年、多くの認知症患者様と出会ってきました。しかし、正直どのように対応すればよいのか分からず、「認知症」というフィルター越しに患者様へ接している自分がいました。そこで、認知症について正しく学び、本人の思いが尊重され安心して入院生活を送るための手助けがしたいと思い、認定看護師の資格を目指しました。

資格取得後の現在は、病棟スタッフと一緒に認知症患者様のアセスメントを行い、コミュニケーションやケアの方法を考え実践しています。ご自身の思いを伝えることが難しい患者様が、私たちの関わりで笑顔になって下さった瞬間を、何よりも嬉しく感じます。これからも、患者様の良い変化をスタッフと共有し、患者様やご家族だけでなく、スタッフの笑顔にもつながるよう、取り組んでいきたいと思ひます。

また、当院では2017年度より認知症ケア加算Ⅱを取得し、看護部で認知症ケア推進チーム（オレンジナスの会）を立ち上げました。今後は院内の医師や薬剤師、リハビリなど多職種によるチームを結成し、院内の認知症ケアの充実を目指します。

そして、かかりつけ医やケアマネジャーなど地域で認知症患者様の生活を支える方々との情報共有を密に図り、円滑な支援へとつなげることができるよう、活動の場を広げていきたいと思ひています。



家族がつくった

「認知症」早期発見のめやす

日常の暮らしの中で、認知症の始まりではないかと思われる言動を「家族の会」の会員の経験からまとめたものです。医学的な診断基準ではありませんが、暮らしの中での目安として参考にしてください。

もの忘れがひどい

- 1. 今切ったばかりなのに、電話の相手の名前を忘れる
- 2. 同じことを何度も言う・問う・する
- 3. しまい忘れ置き忘れが増え、いつも探し物をしている
- 4. 財布・通帳・衣類などを盗まれたと人を疑う

判断・理解力が衰える

- 5. 料理・片付け・計算・運転などのミスが多くなった
- 6. 新しいことが覚えられない
- 7. 話のつじつまが合わない
- 8. テレビ番組の内容が理解できなくなった

時間・場所がわからない

- 9. 約束の日時や場所を間違えるようになった
- 10. 慣れた道でも迷うことがある

人柄が変わる

- 11. 些細なことで怒りっぽくなった
- 12. 周りへの気づかひがなくなり頑固になった
- 13. 自分の失敗を人のせいにする
- 14. 「このごろ様子がおかしい」と周囲から言われた

不安感が強い

- 15. ひとりになると怖がったり寂しがったりする
- 16. 外出時、持ち物を何度も確かめる
- 17. 「頭が変になった」と本人が訴える

意欲がなくなる

- 18. 下着を替えず、身だしなみを構わなくなった
- 19. 趣味や好きなテレビ番組に興味を示さなくなった
- 20. ふさぎ込んで何をするのも億劫がりいやがる

作成者：『公益社団法人 認知症の人と家族の会』



認知症ケア推進チーム（オレンジナスの会）

毎月第4金曜日に、各病棟のリンクナスと事例検討を行っています。チームで身体拘束ゼロを目指し取り組んでおり、昨年度より2%減少させることができました。

院内外研修会

これまで、院内の職員やあかね会の看護職員の方を対象に、認知症ケアの研修会を行ってきました。

12月17日には、今年3回めの院内研修を開催しました。

認知症の人の特徴的な症状には、記憶障害・見当識障害があります。今回は、患者の頭の中で起きている状況をイメージしてもらおうと、事例を用いて話しました。本人の体験している世界をイメージして寄り添おうとする姿勢を持つこと。また、私たちのかかわり次第で、本人が安心して入院生活を送ることができるということを知っておいてほしいと思ひ、ケアのポイントについても共有しました。

<出前講座します>

地域の施設などで研修を希望される場合には、ぜひご相談ください。

連絡先：土谷総合病院 看護部（江原）
TEL：082-243-9191



疾患を持つ方とご家族、又は興味のある方ならどなたでも参加できます

| 教室名/時間 | 月日 | 内容 | 担当 | お問い合わせ |
|-------------------------------|------|----|---------------------------------|-----------------------|
| 慢性腎臓病の 食事教室 14:30～15:30 | 1/15 | 水 | 「カリウム」の控え方 | 腎疾患関連 統括師長 (渡部) |
| | 2/5 | | 「たんぱく制限」について | |
| | 3/4 | | 「献立」のたて方について | |
| 慢性腎臓病教室 10:30～11:30 | 1/21 | 火 | 血圧と慢性腎臓病 | 腎疾患関連 統括師長 (渡部) |
| | 2/18 | | リハビリと慢性腎臓病 | |
| | 3/17 | | 心血管疾患と慢性腎臓病 | |
| 心臓病教室 14:30～15:30 | 1/6 | 月 | お薬について | 心臓血管 センター |
| | 2/3 | | 血管の病気について | |
| | 3/2 | | 自分の身体は自分で守る 実践!! 家庭での血圧と脈拍測定 | |
| | 3/16 | | 未定 | |
| 糖尿病教室 14:00～15:00 | 1/10 | 金 | 冬到来!! 知っておきたい 冬の注意事項 | お薬窓口 |
| | 1/24 | | 糖尿病の知識 嘘と本当 | |
| | 2/14 | | 実践しよう! 糖尿病の運動療法 | |
| | 2/28 | | 糖尿病の基礎知識 | |
| | 3/13 | | 糖尿病の検査について | |
| 肝臓病教室 14:30～15:30 | 1/27 | 月 | 肝臓の検査 | 北外来 |
| | 2/10 | | 肝疾患患者様の日常生活 | |
| | 3/23 | | 肝臓病の栄養について | |
| | 4/27 | | 肝臓病の運動療法 | |

～ 地域包括ケア病棟利用をお考えの方へ ～

こんな時、ご相談ください (どなたからのご相談でもお聞きします)

- 急性期治療(手術や内科療法など)を終えられた患者さまで、もうしばらく経過観察が必要な方や在宅生活へ向けて、環境準備やリハビリが必要な方
- 家族が在宅介護できない期間の入院(冠婚葬祭や入院治療、介護疲れなど)
- 施設への入居待機中の方 (最長60日まで)

医療機関関係者の方へ

脳神経外科医・精神科医はおりませんので、ご注意ください。

連絡先：地域医療連携室 看護師(伊美・土田・楠本)

TEL：082-243-9191(代) FAX：082-243-9223